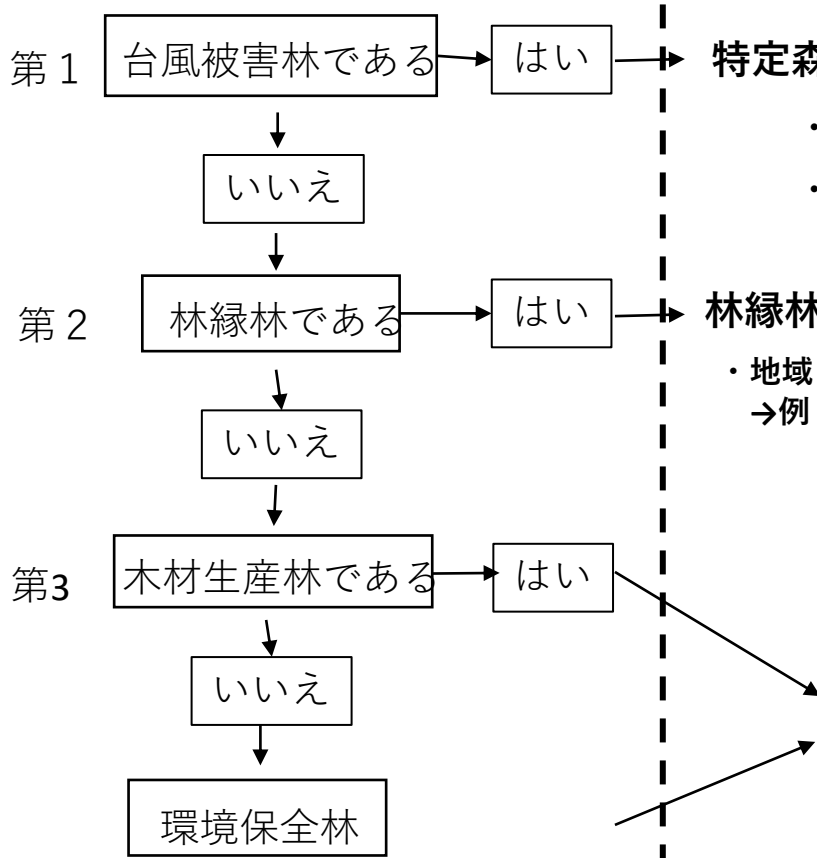


補足参考資料

【ゾーニング手法案（基本となる考え方）】

・ゾーニングを4段階に分けて決定する

中期のゾーニング（10年）
10年での対応を行う

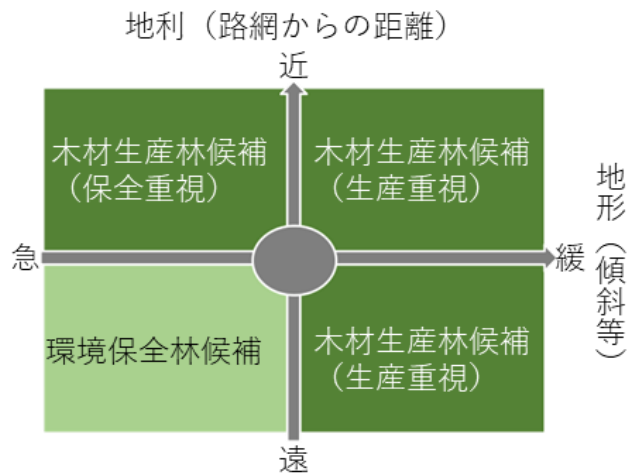


特定森林再生事業

- ・ 9000haの被害林の内550ha
- ・ 「森林の風倒被害対策の技術資料」に準じた整備推進

林縁林整備事業（災害に強い森づくり事業等）

- ・ 地域ごと（全体計画ごと）に林縁林を定義する
→例：ライフライン（電線、道路）から50m以内の森林（樹高の2倍まで）
集落（●軒以上）から2km以内（土砂災害危険）の森林
重要インフラより20m以内



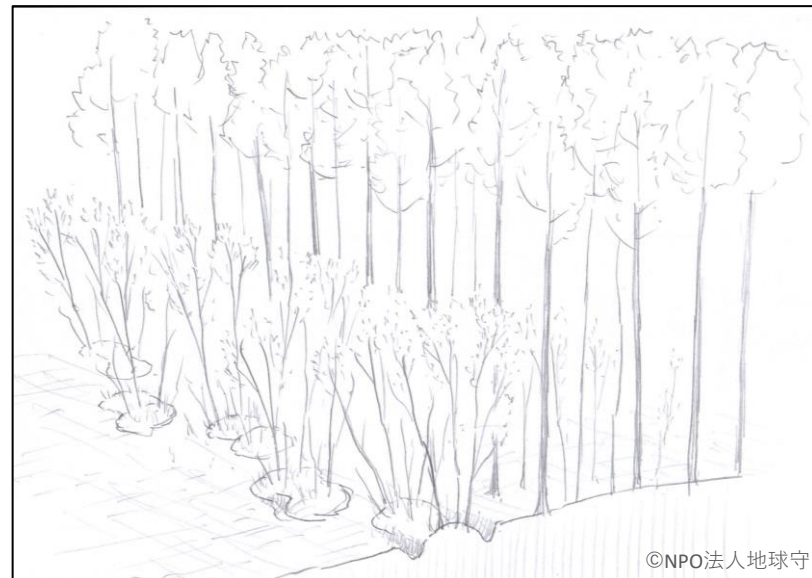
長期のゾーニング（30年）
中期の整備事業を行う中で
木材生産林と環境保全林の
精査を行っていく。

第3段階の次に、法的網掛け（第4）を行い
それらを踏まえて第5段階で所有者の意思確認

【補足：林縁施業について】

林縁施業案

林縁の環境再生手法 ～広葉樹苗混植による樹林帯の醸成



左；マウンド状広葉樹苗密植混植 2～5 m²の植樹マウンドに10ポット程度

右；植樹5年後、6～8 mの林縁樹林に

コナラやカシなど、萌芽更新による管理で樹高管理

【補足：林縁施業について】



不健全な人工林を台風被害を受けなかったかつての山武スギ施業地を手本に再生

広葉樹有用木（シラカシ）との混交林



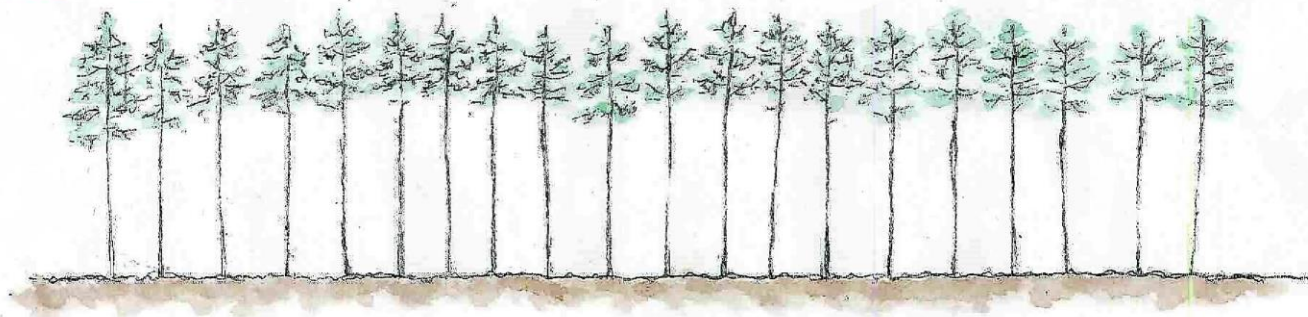
【補足：林縁施業について】



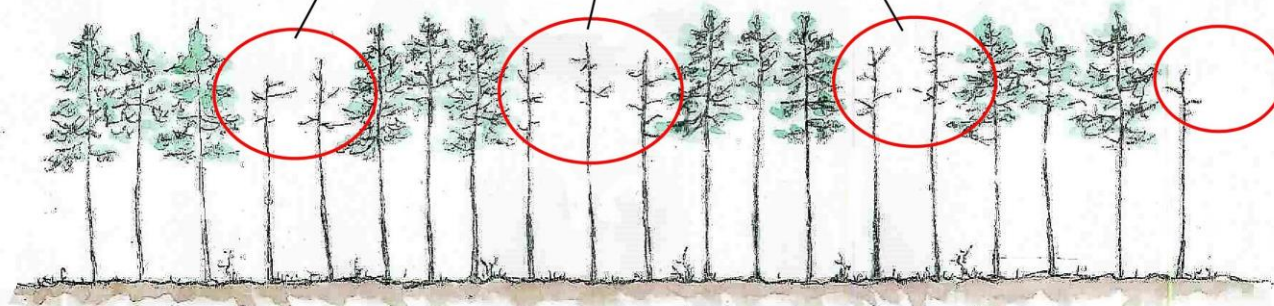
林縁から奥の放置人工林の施工案

涵養力の高い多種共存の健康な森へ

不健全な人工林

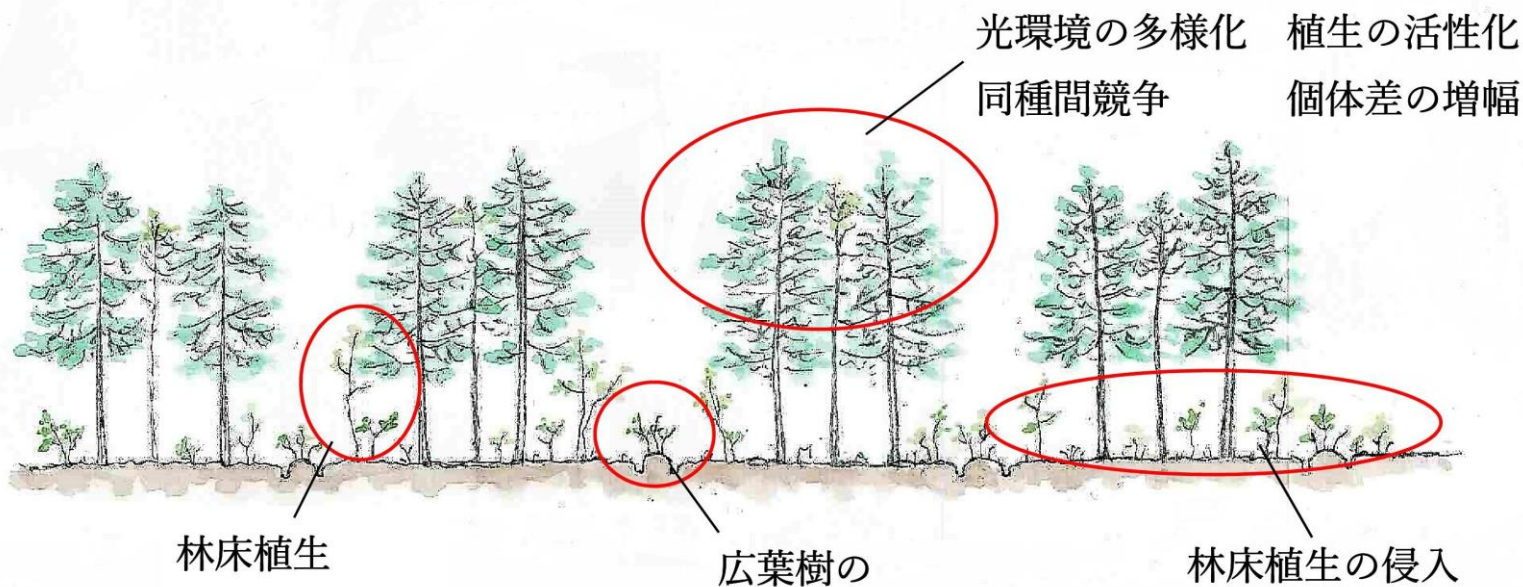
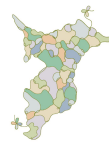


まき枯らし（立ち枯れ状態で1年～2年）

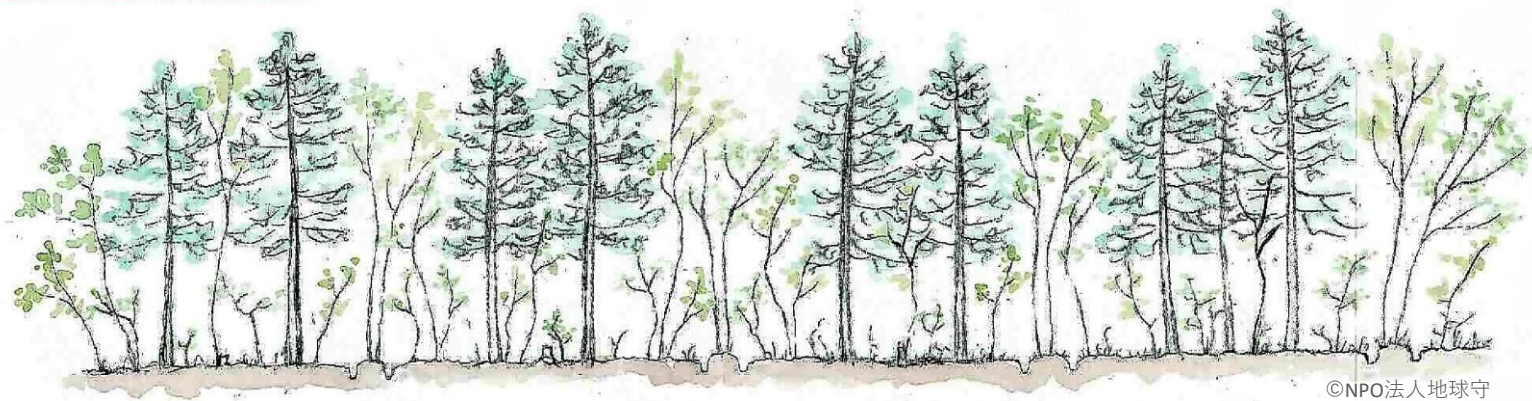


©NPO法人地球守

【補足：林縁施業について】



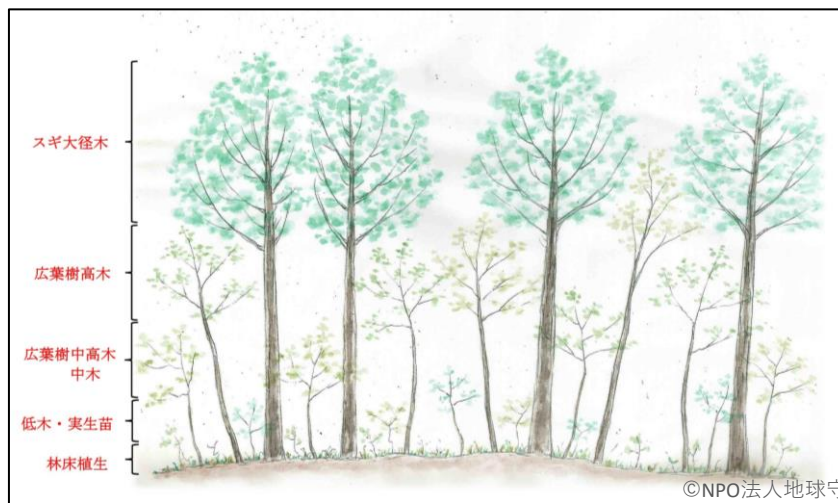
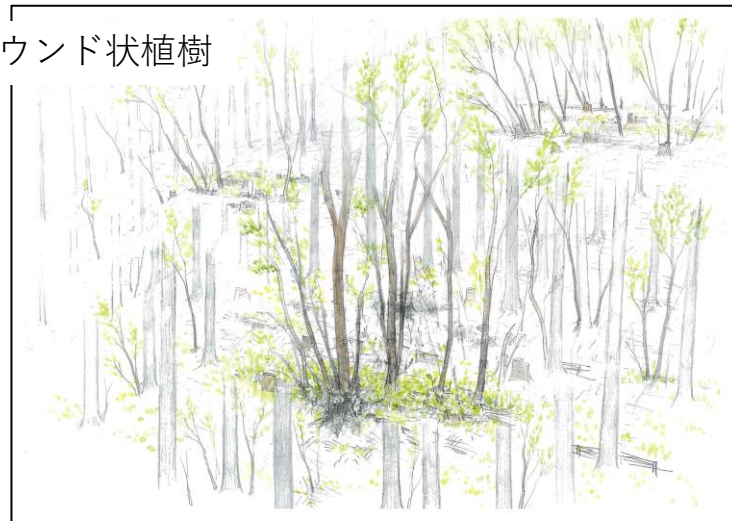
健全な多層混交林へ



【補足：林縁施業について】



パッチ状間伐、地拵え、マウンド状植樹

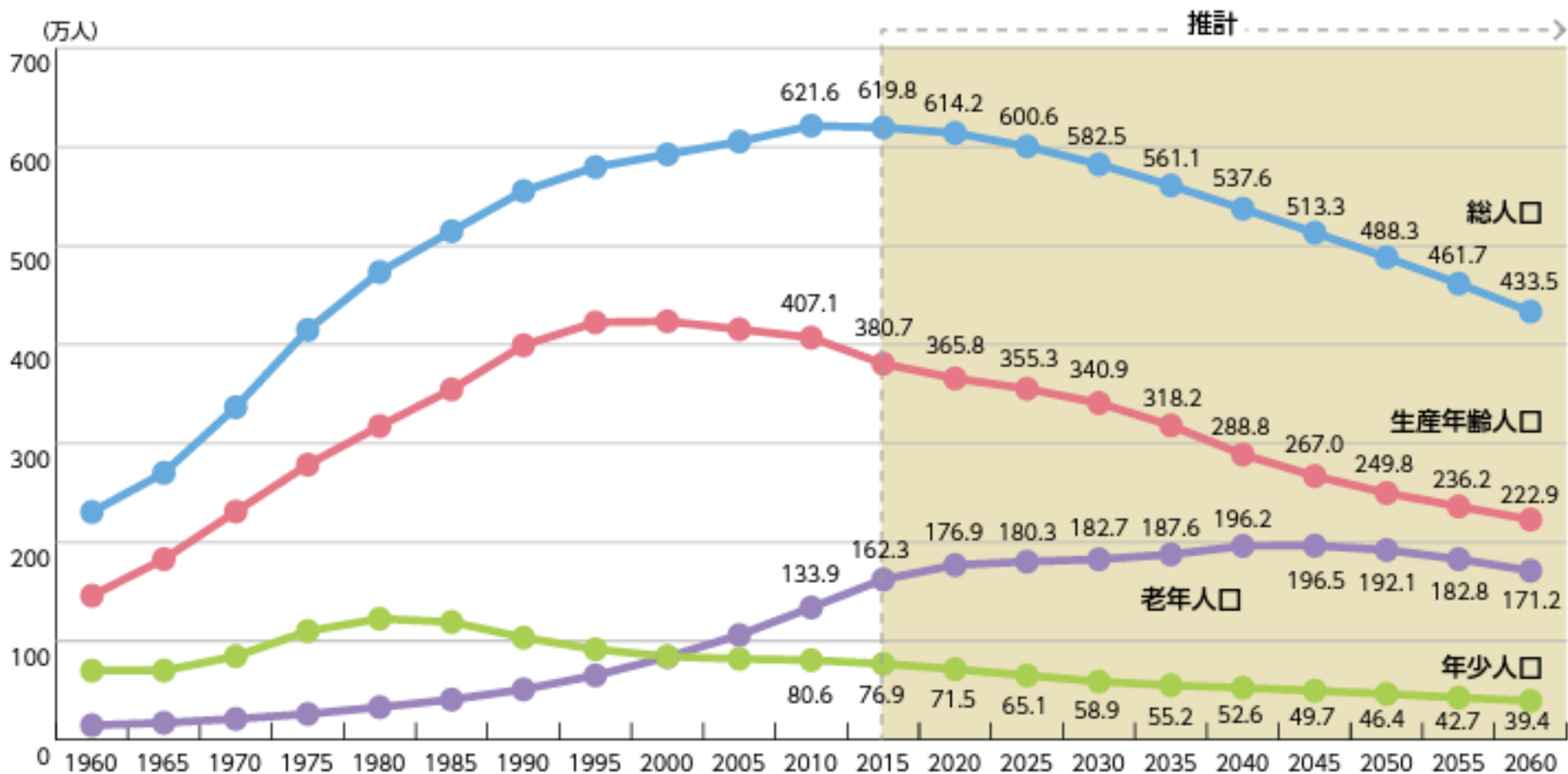


©NPO法人地球守



【千葉県人口推移】

図 総人口及び年齢3区分別人口の推移



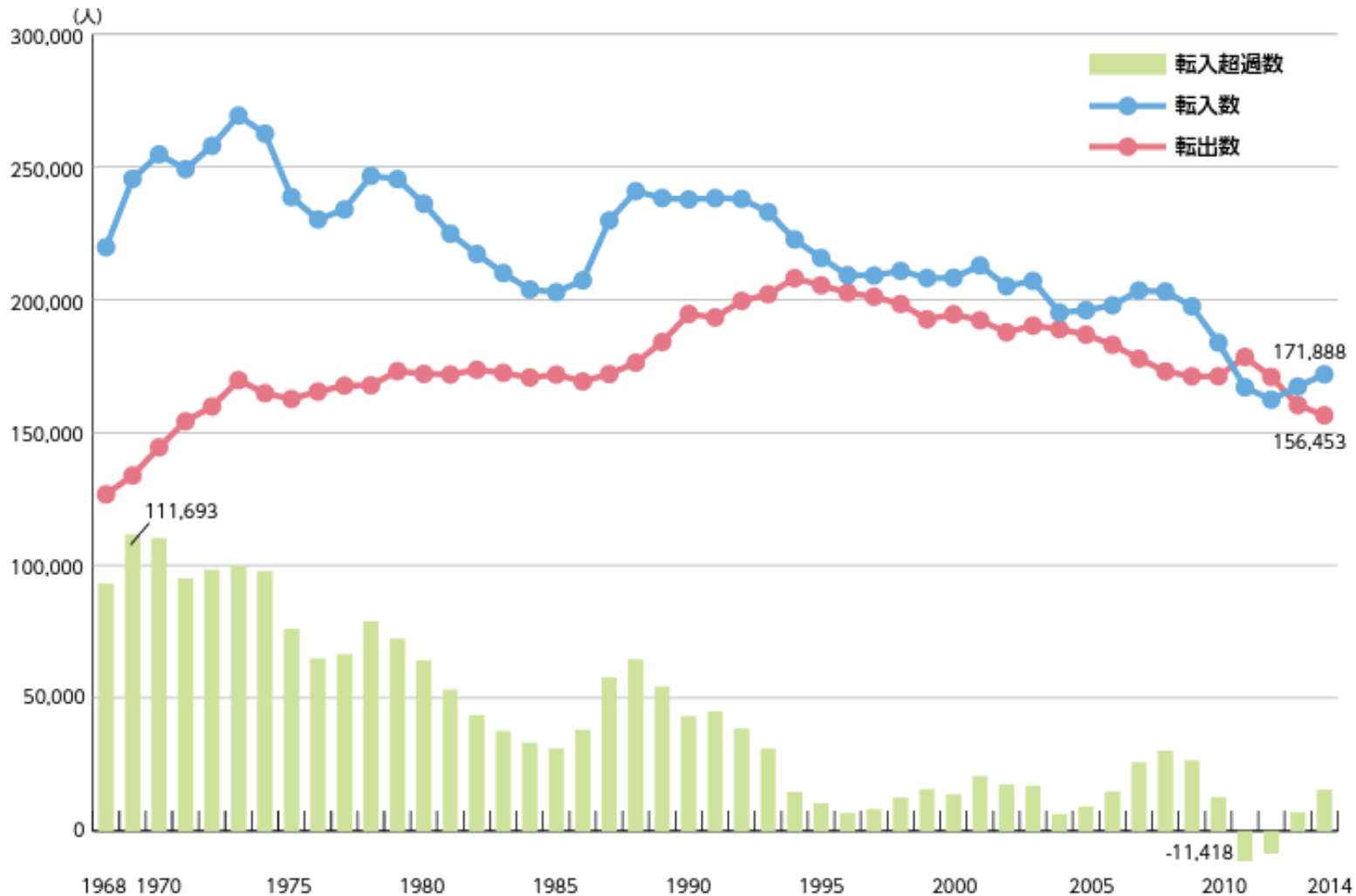
資料：総務省「国勢調査」、「人口推計」、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」（一部再計算）
 （2040～2060年は、まち・ひと・しごと創生本部提供資料に基づき算出したもの。）
 （端数処理の関係で、3区分の和が、総人口に一致しないことがある。）

千葉県人口ビジョン（令和2年改定版）より引用

【千葉県の人口推移】



図 転入・転出数の推移



資料：「千葉県毎月常住人口調査」

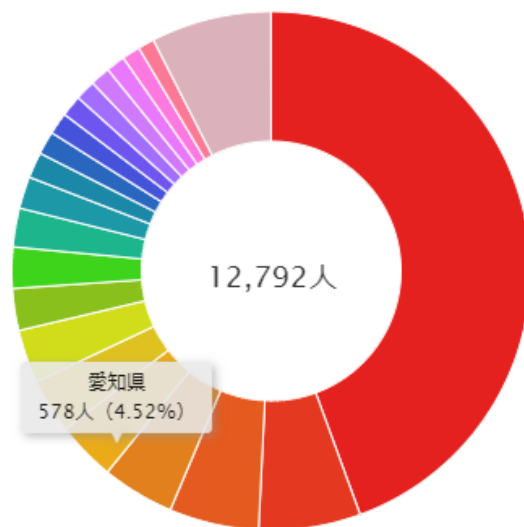
千葉県人口ビジョン（令和2年改定版）より引用

【千葉県の人口転出入（2022年）】



転入超過数内訳

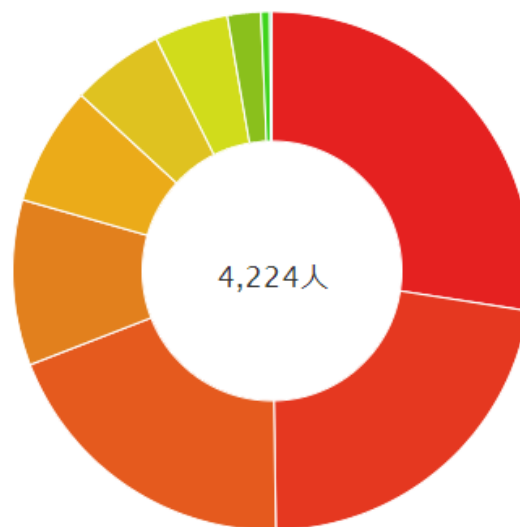
総数



- 1位 東京都 5,683人 (44.43%)
- 2位 大阪府 812人 (6.35%)
- 3位 兵庫県 715人 (5.59%)
- 4位 愛知県 578人 (4.52%)
- 5位 新潟県 471人 (3.68%)
- 6位 福岡県 436人 (3.41%)
- 7位 広島県 427人 (3.34%)
- 8位 福島県 334人 (2.61%)
- 9位 宮城県 328人 (2.56%)
- 10位 青森県 310人 (2.42%)

転出超過数内訳

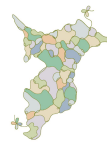
総数



- 1位 茨城県 1,160人 (27.46%)
- 2位 神奈川県 942人 (22.30%)
- 3位 埼玉県 817人 (19.34%)
- 4位 栃木県 436人 (10.32%)
- 5位 群馬県 313人 (7.41%)
- 6位 山梨県 245人 (5.80%)
- 7位 北海道 194人 (4.59%)
- 8位 長野県 88人 (2.08%)
- 9位 宮崎県 23人 (0.54%)
- 10位 熊本県 6人 (0.14%)

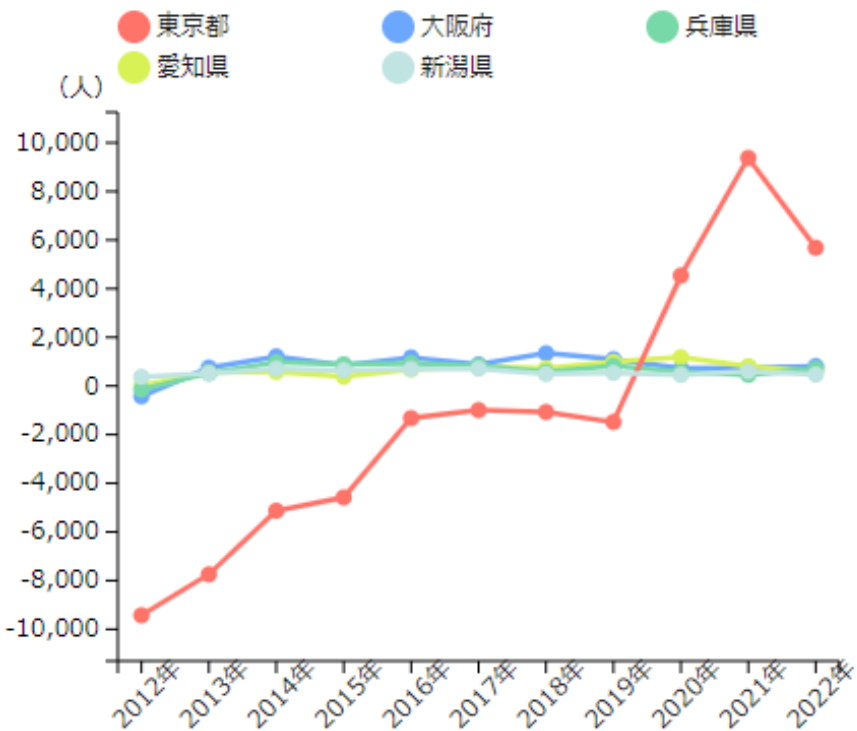
総務省「住民基本台帳人口移動報告」より、REASASにて作成

【千葉県の人口転出入（2012～2022年）】



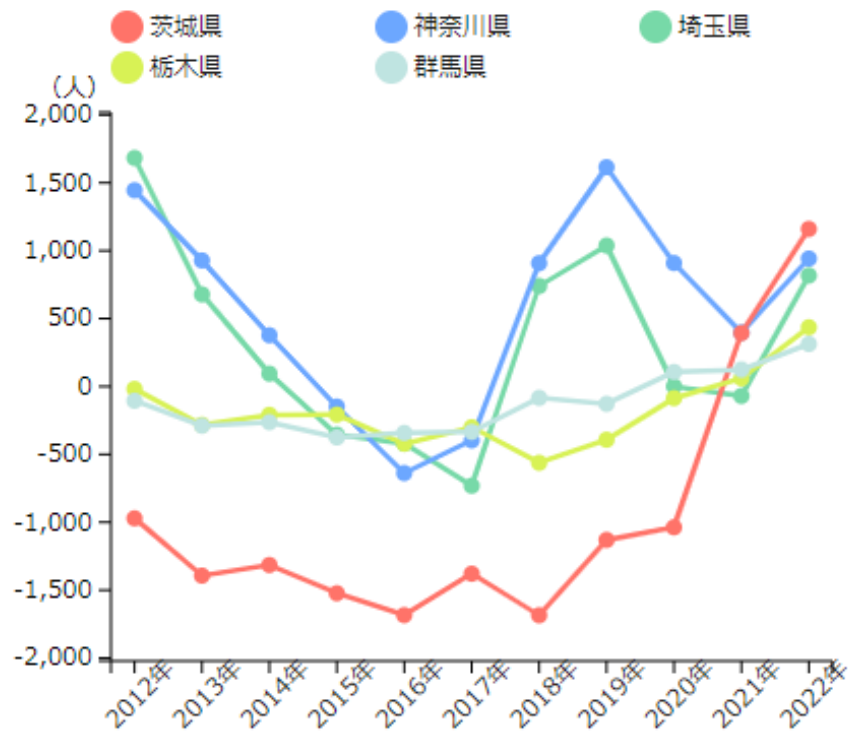
転入超過数上位地域

総数



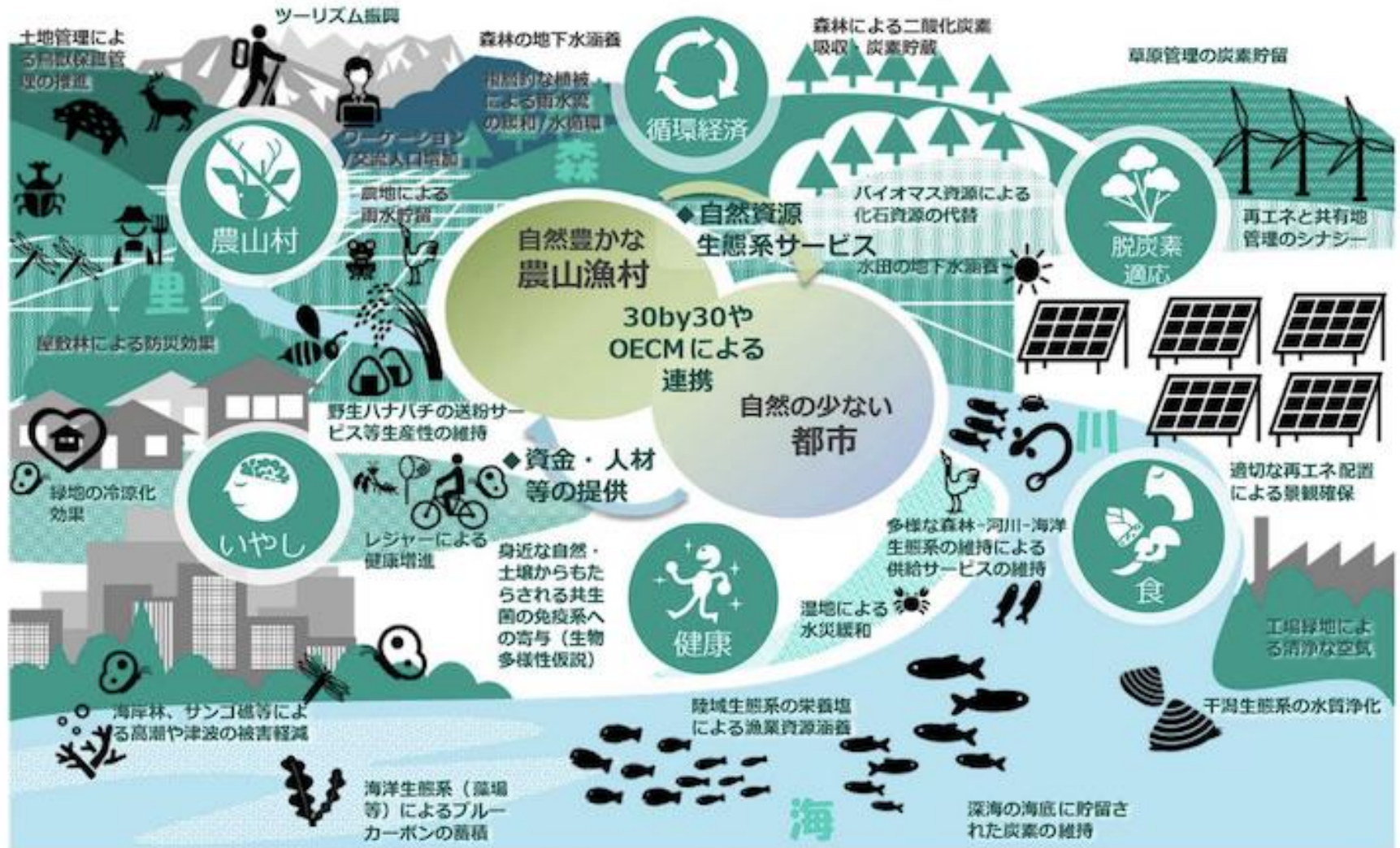
転出超過数上位地域

総数



総務省「住民基本台帳人口移動報告」より、REASASにて作成

30by30実現後の地域イメージ ~自然を活用した課題解決~



環境省「生物多様性国家戦略の附属書「30by30ロードマップ」のイメージ図より引用



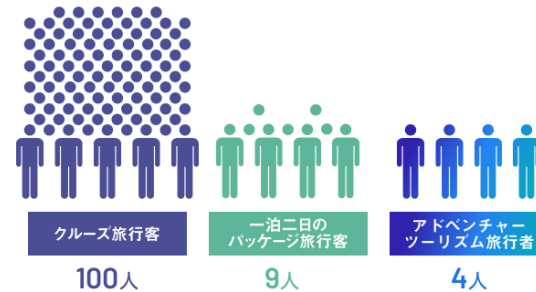
【参考：アドベンチャーツーリズムの考え】



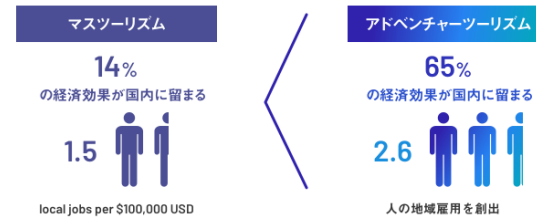
地方だからこそ3要素が揃う	地方だからこそ、自然や農林水産資源が溢れており、ATに必要な三要素が全て揃う
資源活用と持続可能性の両立を支持	ATでは自然や文化が持続していくためにも「保護」と「活用」を両立させる好循環が実現されることを支持
ローカル経済を重視している	自然や文化だけでなく、ATでは地域経済が観光で潤うことを重視しており、中小事業者を大事にしている



10,000米ドルを地域経済にもたすために必要な旅行客数



出典：Adventure Travel Trade Association

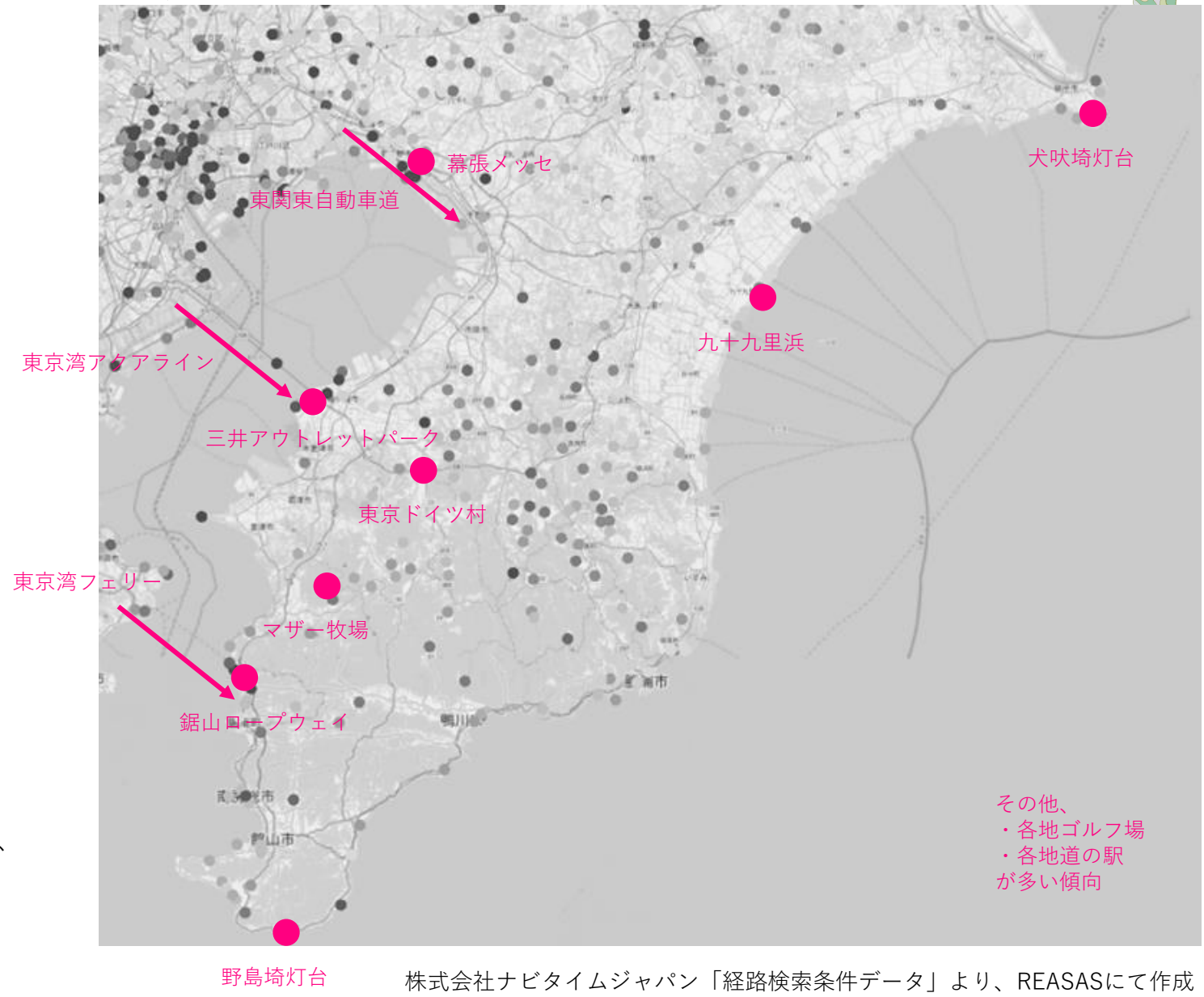


(一社) 日本アドベンチャーツーリズム協議会WEB (<https://atjapan.org/organization>) より引用



【参考：観光（目的地分析）】

※2021年の休日、
自動車による移動



東関東自動車道、
東京湾アクアライン、
東京湾フェリーを経て

県内各所に広く
目的地設定されている



導線上に観光拠点を置き
抱き合わせでの自然観光や、
リゾート施設と併せた
宿泊や体験施設の整備など
ポテンシャルはある

その他、
・各地ゴルフ場
・各地道の駅
が多い傾向

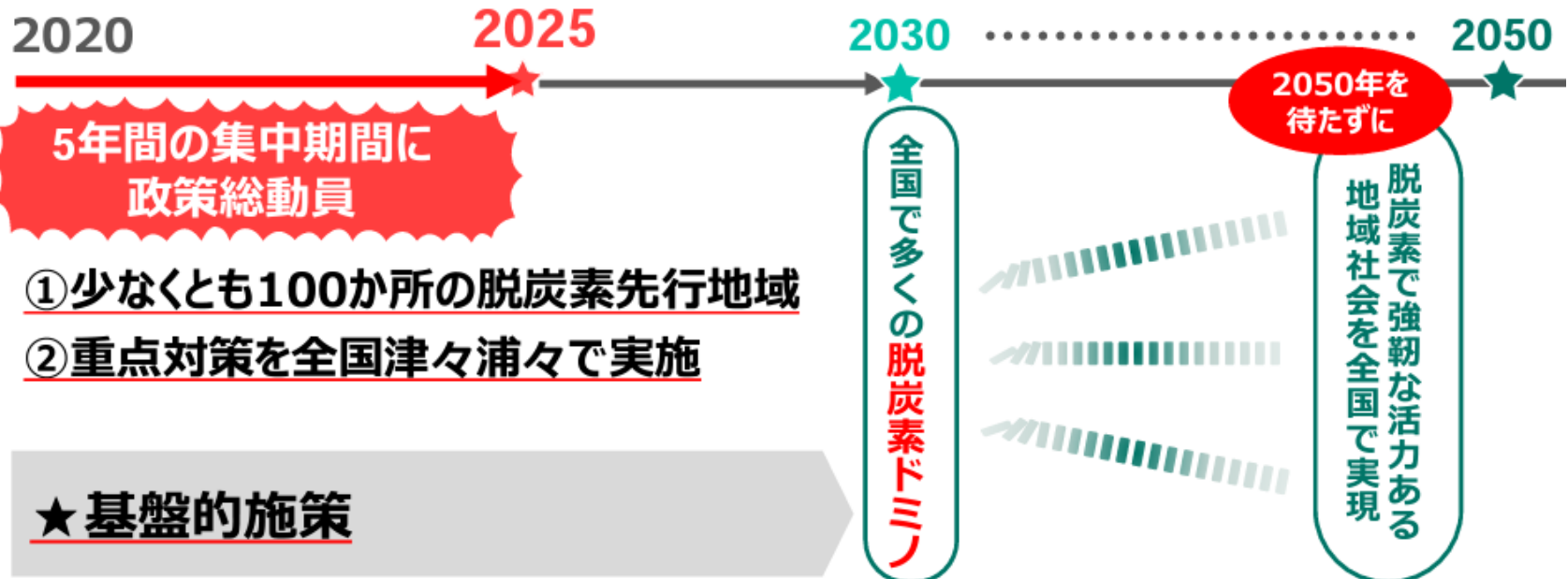
株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」より、REASASにて作成



【参考：環境省：地域脱炭素ロードマップ(概要)】

2. 地域脱炭素ロードマップ 対策・施策の全体像

- **今後の5年間に**政策を総動員し、人材・技術・情報・資金を積極支援
 - ①2030年度までに少なくとも**100か所の「脱炭素先行地域」**をつくる
 - ②全国で、重点対策を実行（自家消費型太陽光、省エネ住宅、電動車など）
- 3つの基盤的施策（①継続的・包括的支援、②ライフスタイルイノベーション、③制度改革）を実施
- モデルを全国に伝搬し、2050年を待たずに脱炭素達成（**脱炭素ドミノ**）

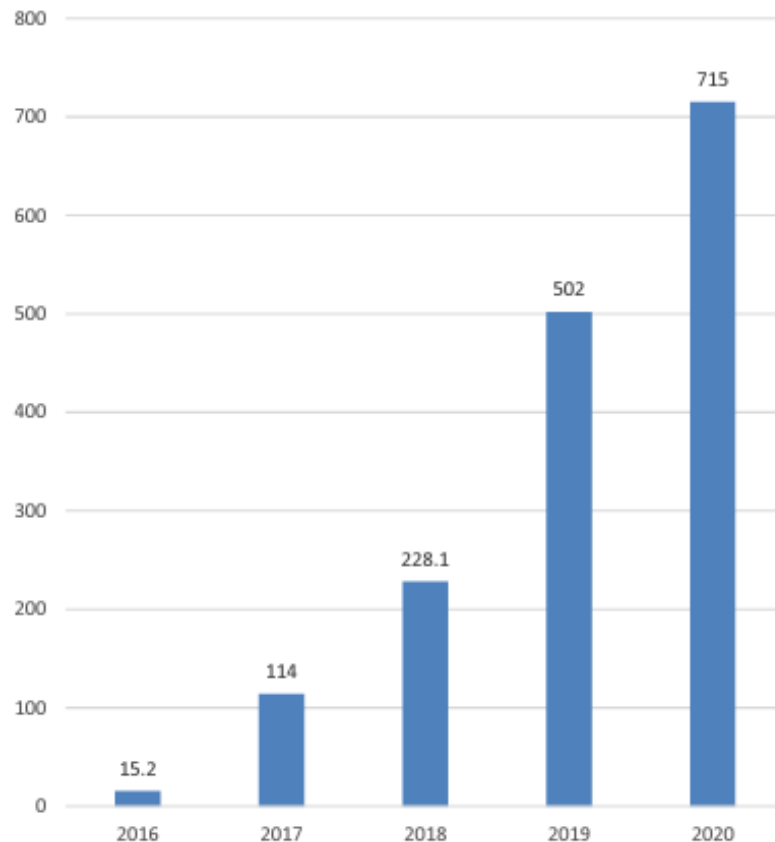


「みどりの食料システム戦略」「国土交通グリーンチャレンジ」「2050カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」等の政策プログラムと連携して実施する

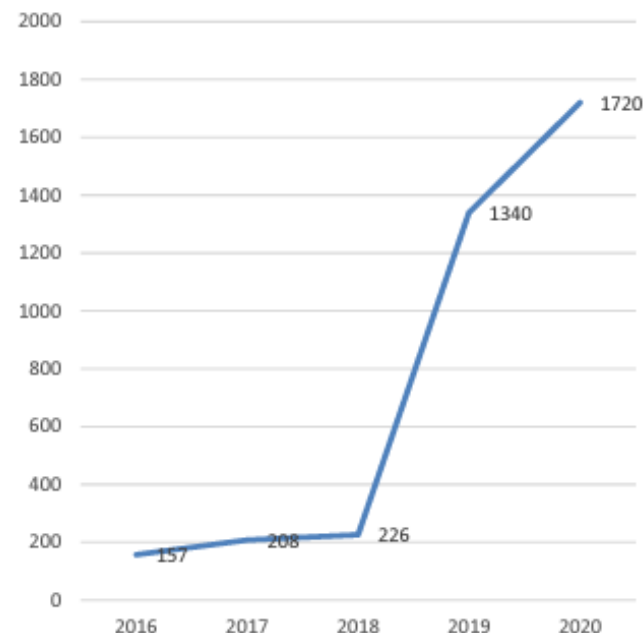
環境省「地域脱炭素ロードマップ（概要）」より引用



世界インパクト投資残高推移 (US\$B)

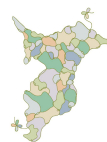


インパクト投資家回答者数推移



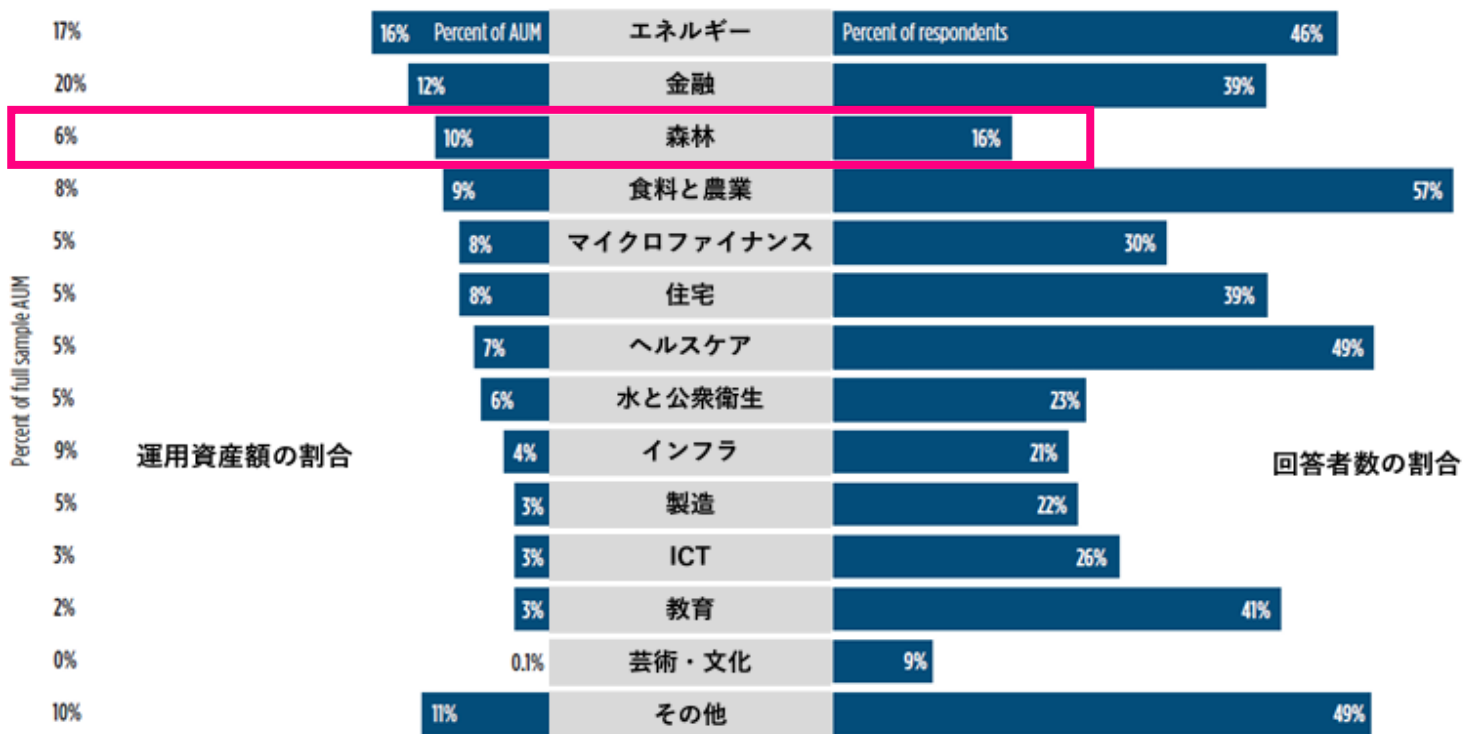
（注）2016～2018年は、投資家のアンケート調査を集計したもので、2019・2020は市場規模の調査をしたもので、データの性格は異なることに留意する必要がある。

投資先分野

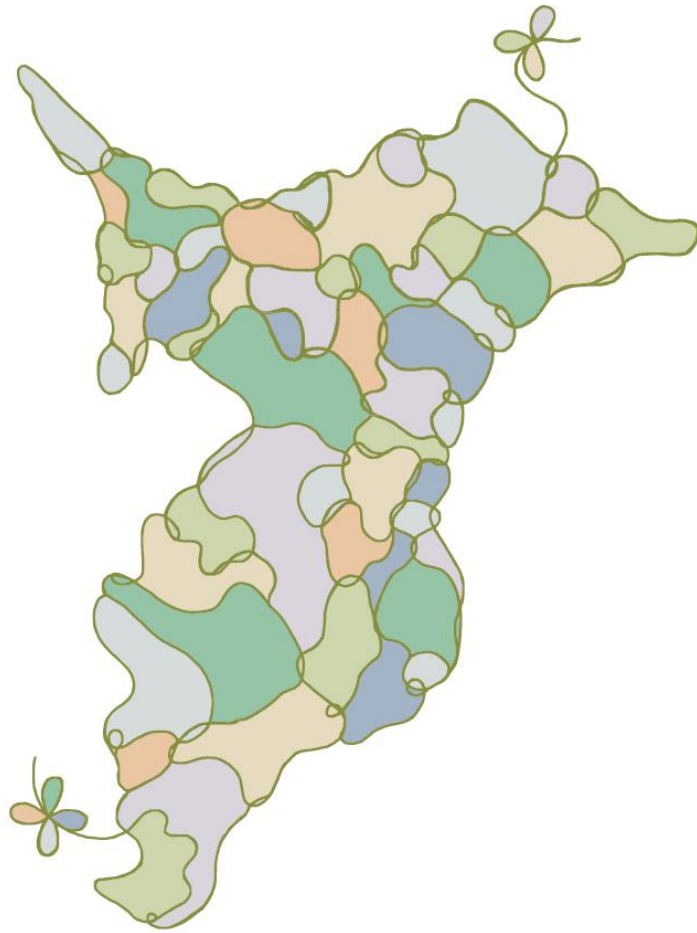


エネルギー、金融（マイクロファイナンス以外）、森林、食料と農業などへの投資が多い。

【投資先分野】



Note: 'Other' includes investments that did not align to these sector categories such as real estate, tourism, community development, retail, and sector agnostic investments.



[ひとつむぎのちば]

このシンボルマークは、森林環境税をご負担
いただく県民の皆様に支えていただき、ちば
らしい森林づくりを行っていくにあたり、市
町村の間を紡ぐ1本の糸がちいきの特色のあ
る森林を描き、関係者がひとつになって森林
づくりを行っていくことをイメージして作成
しました。

みんなで支える、
美しいちばの森林づくり

ーシン・リングョウ/ベッドフォレスト構想ー